
基本施策

青少年育成

施策の内容
(小施策)

青少年の自立支援と
社会参加の促進

2-2 青少年育成

現状と課題

関連計画

第2次刈谷市生涯学習推進計画
2005年～2014年

刈谷市次世代育成支援行動計画
2005年～2014年

青少年期は、心身の発達に伴い、子どもから大人へと成長する時期であり、様々な悩みやかつ藤を経験し、社会の一員としての生活の基盤を確立し、社会へ貢献するとともに、能力や適正などに応じて活躍の場を広げていく時期です。

しかし、少子高齢化、核家族化、情報化、雇用形態の多様化など、青少年を取り巻く環境がめまぐるしく変化する中で、ニートやひきこもり数が高水準で推移するなど、青少年の社会的自立の遅れが深刻化しています。

また、青少年が被害者、加害者となる重大な事件が多発し、インターネットによる有害な情報が氾濫するなど、青少年の健全な成長に対する懸念が強まっています。

本市では、市民活動団体と連携し、放課後子ども教室、キッズクラブ、ヤングカレッジ事業など、青少年に多様な体験、学習機会と交流の場を提供しています。地域社会の中で、成長段階に応じて多様な体験を積み重ねることで、協調性や社会性などを育み、青少年の健やかな成長と自立を支援しています。しかし、24時間型の社会の進行、あるいは家庭や地域の教育力の低下は、深夜はいかいや喫煙などの不良行為の増加の要因となっています。

親をはじめ家族にとっても、社会にとっても青少年は次代を担うかけがえのない存在です。今後も、学校、家庭、地域が連携して、社会全体で青少年の健全育成を図っていく必要があります。



めざす姿（生活像）・目標指標

めざす姿 ～まちの状態～	現状値	目標値	
		2015年	2020年
●社会全体で青少年を愛情と思いやりと責任を持って温かく見守っています。	90.1%	91%	92%
●青少年の体験活動の場に、地域住民が指導者やボランティアとして参加しています。	7か所	17か所	19か所

めざす姿 ～市民の暮らし～	現状値	目標値	
		2015年	2020年
●青少年が健やかに成長し、社会との関わりを持ち、自立しています。	84.8%	86%	87%
●青少年が個性を發揮し、積極的に社会活動に参加しています。	5,905人	18,000人	20,000人

- 青少年育成……本計画においては、概ね未就学児を除く子ども・若者の範囲を想定。
- ニート（NEET）……Not in Education, Employment or Training の略。高校や大学などの学校及び予備校・専修学校などに通学しておらず、配偶者のいない独身者であり、ふだん収入を伴う仕事をしていない15歳以上34歳以下の個人。

用語解説

1) 家庭教育の推進

2013 2016 2020

① 青少年の人間形成の基本となる家庭の役割の重要性について啓発に努めます。			
② 家庭教育に関する講座を開催するなど、明るい家庭づくりの推進を図ります。			

2) 青少年を取り巻く環境の整備

2013 2016 2020

① 学校、家庭、地域が連携し、社会全体で青少年を健やかに育み、自立できる環境づくりを推進します。			
② 青少年の非行防止活動と有害環境の浄化活動を推進します。			
③ 複雑化、多様化する青少年や家族からの相談に対応できる体制の充実を図ります。			

3) 青少年の自立支援と社会参加の促進

2013 2016 2020

① 青少年が社会活動に参加し、社会で生きる力や創造力を育めるよう、様々な体験や交流活動の場の提供と支援を図ります。			
② 地域におけるボランティア活動、異世代交流、社会体験など、青少年が主体的に携わることのできる活動への参加を推進します。			



学校、家庭、地域などが当事者意識を持ち、それぞれの役割や責任を果たすとともに、相互に協力、補完し合い、青少年の健全育成に努めます。



市民の役割

自らが青少年に規範を示すとともに、青少年に基本的な生活習慣や社会のルールやマナーを身につけることができる家庭教育の推進に努めます。

自 助



団体・事業者などの役割

地域全体で青少年の健全な成長を見守る環境の醸成に努めます。また、事業者は教育力や資源を活用し学習機会を提供するなど、地域の教育力の向上に努めます。

互 助



行政の役割

青少年健全育成施策を推進するとともに、学校、家庭、地域などと連携して青少年の自立支援を行います。

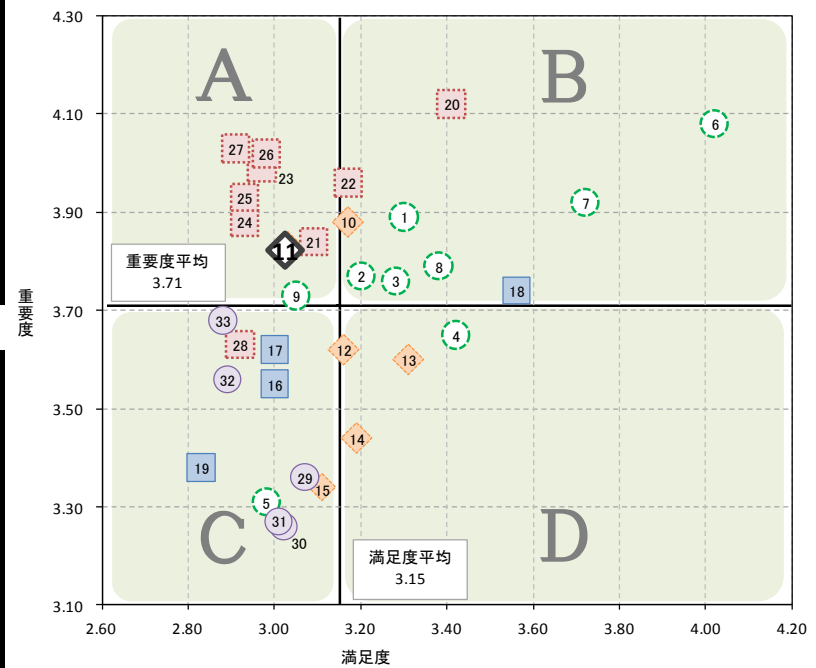
公 助

平成26年度 刈谷市小施策評価シート

基本施策	22 青少年育成
施策の内容(小施策)	223 青少年の自立支援と社会参加の促進
小施策の項目	① 青少年が社会活動に参加し、社会で生きる力や創造力を育めるよう、様々な体験や交流活動の場の提供と支援を図ります。
	② 地域におけるボランティア活動、異世代交流、社会体験など、青少年が主体的に携わることのできる活動への参加を推進します。
	③
	④
	⑤

小施策責任者	生涯学習部長
とりまとめ課	生涯学習課
関係課	

めざす姿(生活像)	まちの状態	社会全体で青少年を愛情と思いやりと責任を持って温かく見守っています。 青少年の体験活動の場に、地域住民が指導者やボランティアとして参加しています。
	市民の暮らし	青少年が健やかに成長し、社会との関わりを持ち、自立しています。 青少年が個性を發揮し、積極的に社会活動に参加しています。



市政に対する市民の評価	11 青少年の健全育成	重要度	ポイント	3.80	3.83
			平均	3.69	3.71
		順位	13 /33	13 /33	
		満足度	ポイント	3.00	3.03
			平均	3.09	3.15
			順位	19 /33	19 /33

目標指標の達成状況	指標名称	単位	実績値			目標値	
			23年度	24年度	25年度	26年度	32年度
活動指標	青少年が参加する体験・交流活動参加延べ人数	人	9,783	14,156	16,633	18,000	20,000
	放課後子ども教室開設校数	校	5	6	7	10	15
	キッズクラブ開催数	回	80	80	80	80	80
成果指標	地域の祭りや行事などに参加することが楽しいと思う子どもの割合	%	84.8(22年度)	83.1	—	86.0	87.0
	放課後子ども教室登録児童数	人	346	459	658	780	980
	キッズクラブ参加者数	人	1,080	1,126	1,068	1,100	1,200
	成人式参加率	%	70.2	72.2	73.8	74	74
	成人式実行委員OB・OGグループ(THE成人)の人数	人	0	0	32	40	48

他市町村との比較検証	比較項目	放課後子ども教室開設率					単位	%
	刈谷市	知立市	安城市	碧南市	高浜市	東浦町		
	7/15	7/7	3/21	1/7	5/5	7/7		
	備考	開設校数/全小学校数						
	比較項目	土曜日の子どもの居場所(キッズクラブ事業)					単位	—
	刈谷市は参加自由の体験活動を、3箇所の生涯学習センターで計80回開催している。 高浜市・・・1小学校でPTA土曜クラブに委託し5クラブ制で85回開催 西尾市・・・小中学生を対象に、1公民館で茶道・料理などの23講座を計111回実施 犬山市・・・小中学生を対象に勤労青少年ホームなどの公共施設で野外レク・陶芸など20講座を計201回実施 江南市・・・小学生を対象に、3公民館で手芸など26講座を108回実施 一宮市・・・4小学校において土曜日に運動場等を開放し、外遊び等を計38回実施 岩倉市・・・5小学校において土・日曜日に開設し、学習、遊びなどの活動を計404回実施 その他の県内市町では実施していない。							
	比較項目	中高生の居場所づくり事業					単位	—
	高浜市・・・青少年対象の施設で開催。休館日を除きほぼ毎日開催。子育て支援施策の一環であるため、対象者は18歳未満で中高生に限定していないが、学習やハンド活動など中高生の利用が多い。 碧南市・・・青少年対象の施設で開催。休館日を除きほぼ毎日開催。自主イベントを年間を通して定期的に行っている。 その他の県内市町では類似の事業を実施していない。							
	比較項目	平成26年成人式参加率					単位	%
	刈谷市	知立市	安城市	碧南市	高浜市	東浦町		
73.8	82.6	76.1	74.5	71.7	83.7			
備考	刈谷市対象者(平成5年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた人)1,593人 参加者1,175人							

平成26年度 刈谷市小施策評価シート

●小施策を構成する事務事業

事業No.	事務事業名	(頁数)	投入コスト(単位:千円)			事務事業評価(25年度決算)					予算対応の考え方	担当課
			24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(当初)	必要性	効率性	妥当性	貢献度	方向性		
1	①②放課後子どもプラン事業	P26	17,995	17,988	24,126	高い	普通	普通	高い	拡充	I	生涯学習課
2	①②キッズクラブ事業	P28	3,938	3,566	3,668	高い	普通	普通	高い	改善・効率化	IV	生涯学習課
3	①②中高生の居場所づくり事業	P30	2,918	2,827	3,011	高い	普通	普通	普通	改善・効率化	IV	生涯学習課
4	①②成人式開催事業	P32	8,130	7,699	8,243	高い	普通	普通	高い	改善・効率化	IV	生涯学習課
構成事務事業数		4	投入コスト合計	32,981	32,080	39,048						

《予算対応の考え方》

方向性	拡充		V	II	I
	現状維持		VI	III	
	改善・効率化		VII	IV	
	縮小		VIII		
	終期設定		IX		
	休止・廃止	X			
		無	縮小	維持	拡充
予算対応の考え方					

《注意事項》

「小施策を構成する事務事業」「成果」「現状分析と課題」「今後の方向性」に掲載されている①、②は、前ページ上部の「小施策の項目①、②」に対応

成果	<p>学童期から、それぞれの成長段階に応じた事業を、学校・家庭・地域の参画を得て実施し、切れ目のない居場所づくりができた。また、地域の方とのふれあいや異世代交流をする中で、青少年の自立を支援し、社会で生きる力や創造力を育む環境づくりができた。生涯学習施設を利用して実施することで、生涯学習の推進及び生涯学習施設を利用するきっかけづくりができた。</p> <p>学童期(小学生) 学校施設を活用して、放課後の子どもの安全・安心な居場所である放課後子ども教室を、平成25年度までに市内15小学校の内7校に開設した。学年・学級を越えた子ども同士の交流や、地域の方との交流を通して、子どもの社会性を育む機会を提供した。登録児童(保護者)658人を対象にアンケートを実施した結果、満足度は概ね満足を含めて76.3%の人が満足と答えており、85.3%の子どもが楽しいと答えている。また、放課後子ども教室に期待することは、遊び・学習・体験の場が45.5%、放課後の安全・安心な居場所が21%、子ども・大人・地域の人との交流の場が25.5%で計92%の人がそれぞれの目的を持って参加していることがわかった。開設場所については、学校施設が適当であると考えている人が90.1%であった。</p> <p>学童期(小・中学生) 市内3箇所の生涯学習センターを利用した、小・中学生の土曜日の安全・安心な居場所であるキッズクラブを様々なプログラムで計80回開催した。地域のボランティア講師を招き、自然体験、創作活動、体験学習(歴史・文化・科学・英語等)など様々な活動を通して、高校生・大学生・大人スタッフなど世代を超えた交流をすることができた。</p> <p>思春期(～18歳) 交通の便も良く、学校帰りでも安心して立ち寄れる公共施設(総合文化センター)内に、中高生が気軽に立ち寄れる居場所を提供し、相談対応や自主活動を支援する中高生の居場所づくり事業を実施し、延べ724人の利用があった。登録者も徐々に増加しており、年3回のイベントにも参加し、同世代の仲間や地域の方との交流を深める事ができた。また、大学生スタッフを対象に、大学教授、弁護士、臨床心理士などを講師に招いてピアカウンセラー養成講座を年10回開催、延べ43人が受講し、相談対応ができる体制を整備した。学校・家族・勉強など31件の相談に、同世代の仲間として話を聞いたりアドバイスをすることで、利用者から自分にとって必要な居場所である、このような居場所があり救われたなどの声が寄せられた。また、相談内容によっては、教員OBによる学校との連携や適切な支援団体等に繋ぐ体制をとっている。</p> <p>青年期(～30歳) 成人式実行委員を公募・中学校長推薦を合わせ23人で成人式実行委員会を組織し成人式開催事業を実施した。成人式開催に向けて実行委員会を14回開催し、毎回議論を重ねた結果、若者のニーズを捉えた企画になり、参加率が上がった。(対象者:1,593人、参加者:1,175人、参加率73.8%)また、実行委員を通して友人や保護者の意見を聞いたところ、楽しかった、流れが良かったなどの声が非常に多くあり、実行委員にとっても達成感を得る事ができ非常に満足した様子であった。次期実行委員へは、楽しい、絶対やるべきなどの応援メッセージを残している。今回から成人式実行委員OB・OGで組織する「THE成人」を新たに結成し、次へ繋がる体制づくりができた。新成人式研究会主宰第14回成人式大賞2014に応募した結果、成人式優秀賞を受賞し、実行委員長が代表で研究ディスカッションに参加し、他市との情報交換や交流を深め、今後「THE成人」で活動する上での参考となった。※応募数94件:大賞1件、準大賞3件、優秀賞3件等33件が受賞</p>
	<p>青少年が心身ともに健やかに成長し自立するためには、地域社会で様々な体験や交流活動を重ね、社会との関わり方を学ぶとともに、地域全体で子どもたちを見守る体制づくりが必要である。子どもたちを継続的に支援するためには地域ボランティアの協力が不可欠であり、ボランティアスタッフの確保、ボランティアリーダーの育成が必要である。</p> <p>学童期(小学生) 放課後子ども教室は、子どもたちにとって、自宅で過ごしたり、習い事に行ったり、友人と遊ぶなど放課後の居場所のひとつである。保護者も、自宅で過ごしたり、習い事をさせたいと考えている人が多く、放課後子ども教室の週当たりの希望日数は1～2日が約67%であり、(平成26年3月刈谷市子ども・子育てに関するアンケート調査結果報告書)現在の開催日数が適当であると考えられる。自由参加であり、当日の参加人数が把握できないため、スタッフ配置に過不足が生じている。また、未開設校もあるため、全校早期開設を目指す、学校の空き教室の状況、コーディネーターやスタッフの人材確保、県補助事業であるため、県の動向も考慮しながら事業を推進する必要がある。</p> <p>学童期(小・中学生) 休日は、家族とのふれあいや家庭教育推進の観点から家庭で過ごすことも大切であるが、友人や地域の方とふれあうことも必要である。キッズクラブは、子どもたちの休日の過ごし方の1選択肢であり多様な体験や交流をする場となっている。料理以外のプログラムは自由参加であるため、当日の参加人数が把握できない。適正なスタッフ配置数を把握するためには事前予約の方法もあるが、子どもたちが自由に参加して、遊び・学ぶことができる環境づくりも大切である。今後は、プログラムや地域による参加人数の偏りなど、現状を分析し、需要に沿った内容にする必要がある。</p> <p>思春期(～18歳) 進路や友人関係など様々な悩みを抱えている年代の若者が気軽に立ち寄れる居場所とするため登録は自由である。利用者の68%を占める未登録者の実態がつかめていないため把握する必要がある。開催場所、事業内容など利用者のニーズを調査して事業の方向性を決める必要がある。また、HP・市民だよりなどで啓発を行っているが、利用者が減少傾向にあるため、PR方法を検討する必要がある。また、大学生スタッフの増加を図るため、大学にPRするなどの対策が必要である。</p> <p>青年期(～30歳) 試験やバイトなどを理由に、成人式実行委員会の出席率にばらつきがある。(最高出席率95.7%、最低出席率43.5%)例年、テーマや自主企画など重要事項を決定する時期に出席率が低く、実行委員会の進行を妨げている。また、決定事項の情報共有が図られにくく、検討が必要である。</p>
	<p>今後も地域の特性や市民ニーズを考慮しつつ、事業内容を見直し、引き続き安心・安全な公共施設内で事業を推進する。また、青少年に社会活動参加の情報提供をすることで参加を促す。</p> <p>学童期(小学生) 開設校の参加状況等を見ながら引き続き放課後の安全・安心な居場所づくりを推進する。また、開設校、未開設校の不均衡を是正するため、県の動向などを考慮しつつ、地域ボランティアの確保、未開設校との連絡調整を図りながら全校早期開設を目指す、市内全域で子どもたちを学校・家庭・地域が連携して支援する環境を整える。</p> <p>学童期(小・中学生) 市内3箇所の生涯学習センターでほぼ同じプログラムで実施しているが、今後は参加状況や地域性を考慮して内容を検討するとともに、適正にスタッフを配置するなどの見直しを図りながら、引き続き土曜日の子どもの居場所づくりを推進する。また、他の事業と連携を図り異年齢交流を促進するとともに学生ボランティアの活用を検討する。</p> <p>思春期(～18歳) 「中高生の居場所」の存在や、中高生が気軽に立ち寄れる居場所であることを広く知ってもらうため、ポスター・チラシの作成等広報に努め、引き続き公共施設内に居場所を提供する。また、立ち寄りやすい環境を整備する。未登録利用者に無理のない方法で実態を調査をしたり、利用者のニーズを調査するなど現状を分析し、改善を図りながら青少年の健やかな成長を支援する。</p> <p>青年期(～30歳) 実行委員主導の式にすることで、達成感や自信につながるとともに、若者のニーズに合った内容になり、式への参加促進を図ることができるため、引き続き、実行委員による企画・運営を支援し、成人式を開催する。成人式実行委員OB・OGで組織する「THE成人」への参加を促すとともに、「THE成人」の円滑な運営ができるよう支援する。また、青年が社会と関わりながら自立していくために、市行事、ボランティア活動などの情報を提供することで積極的な社会参加を促す。</p>
	<p>今後の方向性</p>
	<p>今後の方向性</p>

学校、家庭、地域が連携して、成長段階に応じた子どもの居場所を提供します。

学童期（小学生）

放課後子どもプラン事業（平日開催）（授業終了後～16時30分まで）

1 開設状況（15小学校中7校）

学校名	登録者数 (人)	登録率 (%)	参加率 (%)	学校名	登録者数 (人)	登録率 (%)	参加率 (%)	2 参加の様子 ☆上級生が1年生のことを気にかけていました。宿題を見てあげたり、一緒に遊ぼうと誘ったりする姿がありました。
小高原	109	19.7	27.3	衣浦	69	16.0	43.1	
富士松北	79	19.2	50.1	日高	81	15.0	37.6	
小垣江	126	20.8	61.1	富士松東	82	17.5	40.4	
朝日	112	17.0	57.9	合計	658			

3 アンケート結果（登録児童 658人 回収率 75.8%）（%）

参加状況	楽しさ	期待すること		満足度
積極的に参加 36.8	とても楽しい 49.0	安心・安全な居場所 21.0	預かり保育 7.5	満足 44.8
用事がない時 32.7	楽しい 36.3	子ども同士の交流の場 19.3	地域の大人との交流の場 5.6	概ね満足 31.5
ときどき参加 18.4	ふつう 13.1	遊びの場 19.2	大人同士の交流の場 0.6	普通 17.1
参加しない 12.1	あまり楽しくない 0.9	体験教室 16.6	その他 0.5	少し不満 5.1
	楽しくない 0.7	学習の場 9.7		不満 1.5

学齢期（小・中学生）

キッズクラブ事業（土曜開催）（10時～11時30分または13時～14時30分）

1 開催状況

プログラム 場所 人(回)	自然で 遊ぼう	英語で 遊ぼう	体験 遊び隊	ゲームで 遊ぼう	レッツ クッキング	レッツ スイーツ	レッツ サイエンス	合計
たんぼぼ（南部）	136(10)	118(5)	142(10)				77(5)	473(30)
アイリス（中部）			103(10)	113(10)	130(5)			346(25)
かきつばた（北部）	94(10)	15(3)	66(7)			74(5)		249(25)
合計	230(20)	133(8)	311(27)	113(10)	130(5)	74(5)	77(5)	1,068(80)

プログラムや地域によって参加人数に偏りがある。北部は全体的に利用者が少なく、自然で遊ぼうの参加者が少ない。

思春期（～18歳）

青年期（～30歳）

中高生の居場所づくり事業				成人式開催事業					
1 登録者数（人）				1 成人式実行委員会出席率（7月26日～2月4日）					
中学生	高校生	合計		回	出席率(%)	内容	回	出席率(%)	内容
9	21	30		1	95.7	概要説明	8	78.3	各企画実施内容検討
2 利用者延べ人数（ ）内中学生数				2	73.9	テーマ決定	9	73.9	各企画実施内容検討
登録あり	登録なし	合計		3	69.6	PRについて	10	65.2	当日の役割分担決め
229（5）	495（不明）	724（5+不明）		4	78.3	記念品決定	11	73.9	作業/舞台練習
3 イベント開催状況（人）				5	47.8	メイン企画決定	12	87.0	舞台練習
なごみん ギャラリー	バレンタイン ケーキづくり	なごみ場	合計	6	69.6	デザイン等	13	91.3	舞台練習
24	11	14	49	7	43.5	二十歳の誓い 発表方法	14	65.2	反省会（2月4日）
4 ピアカウンセラー養成講座				平均参加率 72.4%					
全10回述べ43人参加 「エンパワメント」、「子どもの権利」、「青少年の心理」「護身術 WEN=DO」など 講師：刈警、愛教大准教授、弁護士、臨床心理士など				○試験、アルバイトなどを優先する→発表者の決定など、決定事項の際に欠席が目立ち、会議の進行が遅れた。					
				2 実行委員アンケートによる参加者の声					
				☆企画の内容がすごく面白いという声を式後にたくさん聞いた。 ☆友だちや親も式に来るまで思っていたより、すごく楽しかったと言ってもらえました。 ☆みんなの協力と出演者の協力のおかげで盛り上がったことに感動しました。各校から数人、実行委員以外の方に壇上に上がってもらったことで、内輪だけのものにならずに済んだと思います。 ☆ファッションショーの出演者の方にも良い思い出になったと言われ、保護者の方々にもすごく流れが良かったと言ってもらえた。 ☆他市に比べ娯楽要素が多く楽しめた。					
				3 実行委員反省点等					
				☆1回の会議の進行が遅かったのが問題だと思った。 ☆各企画について、班員全体での、内容共有ができていればよかった。					
				4 成人式大賞（新成人式研究会主宰）					
				成人式大賞1件、準大賞3件、優秀賞6件、奨励賞7件、アイデア賞3件、話題賞2件、企画賞3件、努力賞2件、貢献賞6件、受賞計33件中の優秀賞を受賞。応募は94件であった。					
2 参加の様子									
☆初めての参加の子も、高学年の子がうまくリードして作ることができた。									
☆東校生の合唱は、様々な趣向があり、大人も充実した時間でした。高校生に囲まれ子供たちも嬉しそうでした。									
				5 大学生スタッフ					
				10人（愛教大生他）					
				6 参加の様子					
☆高校生の試験勉強を学生スタッフが応援。無事に合格でき、報告に来てくれた。									
☆高校生やスタッフのOBが訪ねてくる。職場の様子等を報告して、高校生等に力を与えている。									

会計名			放課後子どもプラン事業				担当部	生涯学習部		
一般会計							担当課	生涯学習課		
款	項	目					担当係	青少年係		
10	5	5								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化							
		基本施策	青少年育成							
		施策の内容	青少年の自立支援と社会参加の促進							
	目的	学校、家庭、地域が連携して放課後の子どもの安全・安心な居場所を設け、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	主たる内容	地域の方々の参画を得て、遊びや学習、体験活動、地域住民との交流などの取組みを行う放課後子ども教室を開設する。						
	位置づけ	関連計画	刈谷市次世代育成支援行動計画（後期計画）、刈谷市生涯学習推進計画							
		根拠法令	放課後子どもプラン推進事業実施要綱、刈谷市放課後子ども教室事業実施要綱							
		対象者	各小学校に在籍する児童	事業期間	平成20年度～					
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他							
	B 事業 D 実績 O ハ 実 施 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画		
		【登録児童数】		【登録児童数】		【登録児童数】		【既設校及び定員数】		
小高原小学校		96人	小高原小学校	113人	小高原小学校	109人	小高原小学校	80人		
富士松北小学校		105人	富士松北小学校	78人	富士松北小学校	79人	富士松北、小垣江、朝日			
小垣江小学校		97人	小垣江小学校	98人	小垣江小学校	126人	衣浦、日高、富士松東小学校			
朝日小学校		26人	朝日小学校	59人	朝日小学校	112人	各40人			
衣浦小学校		22人	衣浦小学校	43人	衣浦小学校	69人	【新設校及び定員数】			
合計		346人	日高小学校	68人	日高小学校	81人	亀城、富士松南、双葉小学校			
			合計	459人	合計	658人	各40人			
成果 (できたこと)		・体験活動や地域住民との交流を通して、子どもの社会性を育む機会を提供することができた。 ・学年、学級を超えた集団遊び等を通して、子ども同士の関わり方を学ぶことができた。 ・学校生活に慣れない子どもたちにも、学校に来る楽しみや元気を与えることができた。								
課題 (できなかったこと)	・教室のスペースに限りがあるため、登録者の受入れを工夫する必要がある。 ・登録児童の自由参加としているため、実際の参加児童数の把握が困難であり、またスタッフの配置数について過不足が生じる。 ・放課後子ども教室の開設に伴い、コーディネーター等多数の地域の人材が必要となる。									
指標名称（単位）			実績値			目標値				
			23年度	24年度	25年度	26年度	28年度			
活動指標	開設校数（校）		5	6	7	10	15			
成果指標	登録児童数（人）		346	459	658	780	980			
他市との比較検証	開設状況 知立市：7校中7校、週5日、安城市：21校中3校、週1日、碧南市：7校中1校、週3日、各市とも小学校の空き教室で開設。高浜市：5校中5校、週5日小学校のグラウンドで開設（雨天時は体育館）									
C 事業 コスト	単位：千円		23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (予算)	25年度 事業費内訳			
	事業費 ①		12,107	13,397	13,289	18,997	合計	13,288,569 円		
	財源	特定財源	6,901	6,965	7,893	10,100	賃金	2,732,700 円		
		一般財源	5,206	6,432	5,396	8,897	報償費	9,819,350 円		
	職員人件費 ②		6,461	4,598	4,699	5,129	需用費	248,694 円		
	総事業費 (①+②)		18,568	17,995	17,988	24,126	役務費	262,595 円		
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		25年度特定財源名称				
25年度迄の累積事業費		0		放課後子ども教室推進事業費補助金（県）						
27年度以降の事業費見込		0								

会計名			放課後子どもプラン事業	担当部	生涯学習部
一般会計				担当課	生涯学習課
款	項	目		担当係	青少年係
10	5	5			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など 		高い	児童が心豊かで健やかに育まれる環境整備推進のため、遊び、学び、体験、地域の方々と交流する場として、放課後の安全・安心な居場所づくりは必要である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など 		普通	既存の学校施設を利用すること、また、地域の方々をスタッフとして活用することにより、効率的な事業の推進を図ることができる。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など 		普通	本事業を実施するにあたっては学校関係者との連携、協力は必要であり、行政が主体となって積極的に関与することが妥当である。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など 		高い	本事業に参加することにより、児童は日常的に交流することが少ない異年齢の子どもたちや地域の方々と接する機会ができ、本施策の青少年育成に寄与している。
	今後の方向性		<input checked="" type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
	開設校、未開設校の不均衡の解消のため今後も順次拡大していくが、県補助事業でもあるため、県の動向も考慮しながら実施していく。				

会計名		キッズクラブ事業				担当部	生涯学習部		
一般会計						担当課	生涯学習課		
款	項					目	担当係	青少年係	
10	5					5			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	青少年育成						
		施策の内容	青少年の自立支援と社会参加の促進						
	目的	週末に子どもの安全・安心な活動拠点を設け、遊び、文化活動等の体験活動を通じ、子どもが心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。	主たる内容	小・中学生を対象に市内3箇所の生涯学習センターでキッズクラブを開設し、子どもたちが安心して集うことができる居場所を提供する。 ○開催場所 ・たんぼぼ 南部生涯学習センター ・アイリス 刈谷市総合文化センター ・かきつばた 北部生涯学習センター ○開催日 6月から3月 月3回土曜日の午前または午後					
	位置づけ	関連計画		刈谷市生涯学習推進計画					
		根拠法令		放課後子どもプラン推進事業実施要綱、刈谷市キッズクラブ事業実施要綱					
		対象者	市内在住の小・中学生	事業期間	平成17年度 ~				
		実施方法	<input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	B D O 実績 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
		【参加者延べ人数】 ・たんぼぼ 475人 ・アイリス 438人 ・かきつばた 167人 合計 1,080人		【参加者延べ人数】 ・たんぼぼ 586人 ・アイリス 355人 ・かきつばた 185人 合計 1,126人		【参加者延べ人数】 ・たんぼぼ 473人 ・アイリス 346人 ・かきつばた 249人 合計 1,068人		【参加予定人数】 ・たんぼぼ 450人 ・アイリス 400人 ・かきつばた 250人 合計 1,100人	
成果 (できたこと)		創作活動、自然体験など、様々な活動を通して地域住民や異世代交流を図るとともに、週末の安全・安心な居場所を提供する事ができた。							
課題 (できなかったこと)		ほとんどのプログラムは、申込不要であるため、参加児童に対するスタッフの過不足が生じる。また、各会場により参加者数にバラつきが生じた。							
指標名称(単位)			実績値			目標値			
			23年度	24年度	25年度	26年度	28年度		
活動 指標	開催数(回)		80	80	80	80	80		
成果 指標	参加者数(人)		1,080	1,126	1,068	1,100	1,200		
他市との 比較検証	高浜市は1校のみPTA土曜クラブに委託し、家庭科、書道、剣道、ちぎり絵、フルートの5クラブ制で開催している。								
C 事業 コスト 建設 事業	単位：千円		23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (予算)	25年度 事業費内訳		
	事業費 ①		2,735	2,735	2,724	2,789	合計	2,723,751 円	
	財 源	特定財源	1,176	1,345	1,312	1,315	委託料	2,723,751 円	
		一般財源	1,559	1,390	1,412	1,474			
	職員人件費 ②		1,436	1,203	842	879			
	総事業費(①+②)		4,171	3,938	3,566	3,668			
	建設 事業	全体事業費(単位：千円)		0		25年度特定財源名称			
25年度迄の累積事業費		0		放課後子ども教室推進事業費補助金(県)					
27年度以降の事業費見込		0							

会計名			キッズクラブ事業	担当部	生涯学習部
一般会計				担当課	生涯学習課
款	項	目		担当係	青少年係
10	5	5			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など 		高い	異年齢の子どもたちや地域の人々と交流する場として、安全・安心な居場所を設けることは重要である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など 		普通	地元のNPOに委託することは、地域の実情に合った事業ができ、また費用の節減にもなっている。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など 		普通	子どもたちの居場所を設けるに当たっては、安全・安心な居場所であることが必要となるため、公共施設内に開設し市が関与することが妥当である。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など 		高い	本事業に参加することにより、児童は日常的に交流することが少ない異年齢の子どもたちや地域の方々と接する機会ができ、本施策の青少年育成に寄与している。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
現在、市内各生涯学習センターにおいて均等に実施しているが、参加者数に偏りが生じているため、3箇所とも均等に実施している体制を見直し、地域性や参加状況を考慮した内容に見直していく必要がある。また、市内各生涯学習センターにおいて実施することにより、学童期より公共施設である生涯学習センターを利用することで生涯を通じてセンターを利用するきっかけになると考えられるため、引き続き公共施設において実施していく。ボランティアスタッフの確保や、異年齢間交流を図ることができるため、他事業との連携を検討する。					

会計名			中高生の居場所づくり事業				担当部	生涯学習部	
一般会計							担当課	生涯学習課	
款	項	目					担当係	青少年係	
10	5	5							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	青少年育成						
		施策の内容	青少年の自立支援と社会参加の促進						
	目的	中高生が放課後等に気軽に集まることができる居場所を提供する。また、中高生自らイベントの企画運営に携わることができる機会を提供することにより、中高生の自立を支援する。	主たる内容	放課後に気軽に立ち寄ることができる、中高生のための学習や交流等の居場所を提供し、声かけ、悩み等の相談対応や自主的な活動への支援を行う。大学生をピアカウンセラーとして養成し、スタッフとして配置する。 ○場 所 刈谷市総合文化センター内 談話コーナー ○開催日 毎週火・木曜日 16時～21時					
	位置づけ	関連計画	刈谷市次世代育成支援行動計画（後期計画）、刈谷市生涯学習推進計画						
		根拠法令	子ども・若者育成支援推進法						
		対象者	市内在住または在学の中高生	事業期間	平成22年度～				
		実施方法	□直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他						
	BDO 事業実績 O 実施 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
		利用者数	延べ1,348人	利用者数	延べ1,230人	利用者数	延べ724人	利用者数	延べ1,000人
登録者数		23人	登録者数	28人	登録者数	30人	登録者数	35人	
成果 (できたこと)		学習活動や、大学生スタッフとの交流を深める中で、中高生が気軽に立ち寄ることができる居場所づくりができた。各種イベントの企画・実施、大学生スタッフにピアカウンセラー（仲間として相談に応じる人）養成講座を行い、相談に対応できる知識の習得に努めた。							
課題 (できなかったこと)		・本事業の活動として悩みの相談対応があるが、ピアカウンセラーとして活動する大学生スタッフの確保が必要である。 ・利用者が減少しており、利用者を増やす工夫が必要である。							
指標名称（単位）			実績値			目標値			
			23年度	24年度	25年度	26年度	28年度		
成果指標		登録者数（人）		23	28	30	35	40	
成果指標		中高生が関わったイベントの回数（回）		3	3	3	3	3	
他市との比較検証		碧南市、高浜市が類似の事業を実施している。							
C 事業コスト	単位：千円		23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (予算)	25年度 事業費内訳		
	事業費 ①		1,983	1,998	1,985	2,058	合計	1,984,899 円	
	財源	特定財源	456	0	0	0	需用費	8,925 円	
		一般財源	1,527	1,998	1,985	2,058	委託料	1,975,974 円	
	職員人件費 ②		1,077	920	842	953			
	総事業費 (①+②)		3,060	2,918	2,827	3,011			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		25年度特定財源名称			
25年度迄の累積事業費		0							
27年度以降の事業費見込		0							

会計名			中高生の居場所づくり事業	担当部	生涯学習部
一般会計				担当課	生涯学習課
款	項	目		担当係	青少年係
10	5	5			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など 		高い	地域でのコミュニケーションの欠如、若者の自立の遅れ等、社会環境が変化中、中高生が気軽に立寄り社会参加できる場所が必要である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など 		普通	大学生をピアカウンセラーとして養成し、大学生自身の意識、能力向上に繋げ、またその大学生をスタッフとして配置することで事業の効果が期待できる。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など 		普通	中高生が放課後等に気軽に立ち寄るなかで交流を深め、悩み事を安心して相談できる環境づくりが必要であるため、公共施設内に開設し市が関与する事が妥当である。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など 		普通	安心して過ごせる居場所を設け、同世代の仲間との交流、悩みの相談等を行うことで、中高生の自立を支援することができる。
今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止		
引き続き、中高生が放課後に気軽に立寄りることのできる居場所を提供するとともに、ボランティア活動や地域活動など中高生の社会参加を支援する。また、ピアカウンセラーの養成を推進し、大学生スタッフの確保に努める。利用状況の推移等を参考に、事業内容や対象者等の見直しを検討する必要がある。					

会計名			成人式開催事業				担当部	生涯学習部	
一般会計							担当課	生涯学習課	
款	項	目					担当係	青少年係	
10	5	5							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	教育文化						
		基本施策	青少年育成						
		施策の内容	青少年の自立支援と社会参加の促進						
	目的	刈谷市成人式実行委員会との共催で成人式を開催し、次代を担う新成人の門出を祝福するとともに、大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする意欲の向上を図る。			主たる内容	新成人の中から実行委員会を組織し、式の企画、運営を行い、心に残る成人式を開催する。			
	位置づけ	関連計画							
		根拠法令							
		対象者	新成人(平6.4.2~平7.4.1生)		事業期間	~			
		実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> その他						
	BDO 事業実績 O 実施 V	23年度実績		24年度実績		25年度実績		26年度計画	
		開催日	平成24年1月8日	開催日	平成25年1月13日	開催日	平成26年1月12日	開催日	平成27年1月11日
会場		刈谷市総合文化センター	会場	刈谷市総合文化センター	会場	刈谷市総合文化センター	会場	刈谷市総合文化センター	
対象者数		1,658名	対象者数	1,654名	対象者数	1,593名	対象者数	約1,600名	
参加者数		1,165名	参加者数	1,194名	参加者数	1,175名			
成果 (できたこと)		成人式を行うことにより、新成人が恩師や旧友らと話し合う機会となり、大人として今後どのように生きていくかを語るきっかけとなった。							
課題 (できなかったこと)		実行委員会の出席率にばらつきがあるため、テーマ・実行委員企画等がなかなか決まらない。最高出席率95.7%、最低出席率43.5%、平均出席率72.4%							
指標名称(単位)				実績値			目標値		
				23年度	24年度	25年度	26年度	28年度	
成果指標		実行委員OB・OGグループ(THE成人)の人数(人)			0	0	32	40	48
成果指標	成人式参加率(%)			70.2	72.2	73.8	74	74	
他市との比較検証	知立市、安城市、碧南市、高浜市、東浦町は成人式実行委員会を組織し、実施している。								
C 事業コスト	単位：千円		23年度(決算)	24年度(決算)	25年度(決算)	26年度(予算)	25年度事業費内訳		
	事業費①		3,790	3,886	3,701	3,993	合計	3,700,952円	
	財源	特定財源	0	0	0	0	旅費	23,520円	
		一般財源	3,790	3,886	3,701	3,993	委託料	3,097,932円	
	職員人件費②		6,102	4,244	3,998	4,250	使用料及び賃借料	579,500円	
	総事業費(①+②)		9,892	8,130	7,699	8,243			
	建設事業	全体事業費(単位：千円)		0		25年度特定財源名称			
25年度迄の累積事業費		0							
27年度以降の事業費見込		0							

会計名			成人式開催事業	担当部	生涯学習部
一般会計				担当課	生涯学習課
款	項	目		担当係	青少年係
10	5	5			
C H E D C K ハ 評 価 V	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など 		高い	次代を担う新成人の門出を市民皆で祝福するとともに、新成人が大人になったことを自覚する場を設けることは重要である。
	効率性	<ul style="list-style-type: none"> ・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など 		普通	新成人が実行委員として企画、運営に参画することにより、効率的な事業の推進を図ることができる。
	妥当性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など 		普通	会場の手配、新成人の人数の把握、成人式の通知など事務の基礎的な部分は行政が主体となって関与することが妥当である。
	施策への貢献度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など 		高い	新成人が式に参加することにより、社会人として自覚するきっかけとなる事が期待できる。実行委員が、企画、運営をすることで、実行委員の仲間づくりの場、成長の場となり、社会参加のきっかけとなる。
	今後の方向性			<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・効率化 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 終期設定 <input type="checkbox"/> 休止・廃止	
引き続き、実行委員が企画、運営に参画することで、若者のニーズに合った内容にするとともに、成人式のPRを行うことで参加を促す。また、昨年度OB・OGで結成された「THE成人」への参加を促し、組織が継続して円滑な運営ができるよう支援するとともに、ボランティアへの参加協力等社会参加を促す。式の運営については、施設管理者、ボランティアスタッフの協力を得ながら式が開催できるよう、引き続き実施していく。					

